

ヤツガシラ種芋収穫

便ノ山ふるさと企画會 来年のくき漬け用に

紀北町便ノ山のNPO法人ふるさと企画會(田上至理事長)は7日、便ノ山で栽培しているくき漬けの材料「ヤツガシラ」の種芋を収穫した。

同法人は6年前から中里の自動車部品製造会社「海洋ゴム」と連



ヤツガシラの種芋を収穫するNPO法人ふるさと企画會の田上至理事長(右)ら社員=7日、紀北町便ノ山の畑で

携して銚子川流域のPR活動を行っており、この日も同社と合同でヤツガシラの種芋を収穫する予定だったが、悪天のため自主活動に変更し、田上理事長ら社員6人が作業に取り組んだ。

サトイモの一種のヤツガシラの茎を赤シソで漬けた「くき漬け」は便ノ山の特産品。同法人は地元農家から製法を教わり、権兵衛の里近くの休耕田を活用してヤツガシラを栽培し、くき漬けの製造販売を行っている。今年も8月に茎を収穫し、種芋となる球根に肥料を与えて育てた。

社員らは小雨が降る中、500平方メートルの畑で直径3〜15センチほどの種芋をスコップで掘り起こし、サイズ別に仕分けして土を取り除くなど約2時間の作業に汗を流した。今月中に2〜3回の作業を予定しており、収穫した種芋は栽培を始める来年3月末まで同法人のくき漬け加工場に保管するという。

田上理事長は「今年はいノシシの被害がななく種芋の生育も順調。来年もおいしいくき漬けが生産できそう」と笑顔で話していた。くき漬けは便ノ山地区で江戸時代から生産する特産品だが、農家の高齢化で生産量は年々減少しているという。